

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

令和4年2月 第252号 年間購読料1,000円（1部100円）

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

団塊世代『最後の社会変革』

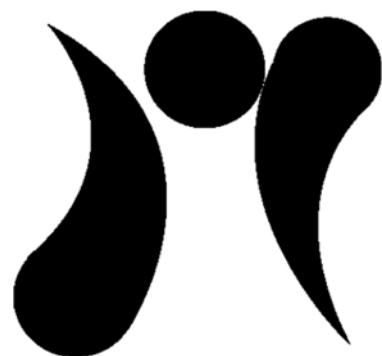
—長寿化と少子化が同時進行する社会の『怪』と『解』—

団塊世代が後期高齢期に入る『2025年』対策として、『予防重視型』介護保険制度を2000年に開始し、21年を過ぎた今、更なる予防に向けた『科学的介護』の充実を目指して、全国の介護事業所から『明確な根拠』となる情報を収集するシステム『LIFE』への参加による『介護報酬の加算』を開始し、『健康願望』に沿う『予防重視型介護』の徹底を図っています。

其処で思いだすのが十数年も前に『永田萌さん』の講演で聞いた、『願望を基に描く夢は幻想に過ぎない』との言葉です。子供たちを『夢の世界』へといざなう『絵本作家：永田萌さん』の言葉だけに、鮮明に記憶しています。

集団で生きる動物は、本能として集団の中で子を産み、仲間と共に育てます。『老いて死期を悟る』と、動物は本能的に群を離れますが、人間は『死に逝く身』を仲間に委ね、仲間達は世話を看取ります。人間社会においてのみ、『子を産み育てる営み』と『死に逝く身を仲間に委ねる営み』と『仲間が世話を看取る営み』との間に『密接な関係性』が生まれ、其処で人は『思想や宗教』を創り、『人間性や社会性』を育み、『文化・文明』を築き、『引き継いで』来たのです。

(次ページに続く)



(前ページの続き)

『死に逝く身を仲間に委ねる営み』は『子を産み育てる営み』と共に『人と社会』の『根源』です。『老いて要介護になる』のは死に逝く身を委ねる『準備』であり、『覚悟』を伴う『人ゆえ』の本能に沿う営みです。『要介護』は『予防』するものではなく、『自立』して『老いと死』に向き合う『出発点』です。

子や仲間が、介護する中で『死に逝く身』が備える『覚悟』に気付き、其の覚悟に応えて若人が『子を産む勇気』を蓄え、育てる『歓び』に出逢い、社会を引き継ぐのです。長寿社会で40年以上も『少子化』が続くのは、『社会の引継ぎ』が危うくなる『いびつな世』であり、『怪』なる社会です。

人の世で『老いと死』と『誕生と成長』は『表裏一体の関係』であり、『人が入れ代り』ながら『社会』を引き継いで来た『原点』です。『超長寿=超多死』の世で『少子』が永く続き、その『原点』が今、『壊れ』掛けているのです。

『健康願望』を背景に『寿命』が延び続ける世で約20年続いた『少子化』が、『予防重視型介護制度』の下で『更に』20年以上に続き、此れ以上続くと『社会の引継ぎ』が危うくなります。正に『願望を基に描く夢=社会は幻想に過ぎず』が『現実化』しそうで、後期高齢期目前の『団塊の一員』として、『今』が社会の『怪』を解く為の『変革の時』だと、痛切に感じます。

吾身の『終焉』の際には『覚悟して仲間に身を委ね』、『新たな命を産む勇気』に繋がる道を拓いておきたい、と心より念じます。

せいりょう園 渋谷 哲



初詣



昨年同様コロナウイルス感染症が流行しているため、尾上町口里にある浜の宮神社に職員が代表してお参りしました。黒松の生い茂る境内は枝が風に揺れ、本堂に入ると神聖な空気に身が引き締められました。

祝詞を唱えていただき、太鼓の音が胸の奥まで響きました。玉ぐしを奉納し、拍手を打ち1年の感謝と新しい年の幸せを祈願しました。初詣を終えて境内に出てくると近くの小学校の校庭に響く子供たちの明るい声が聞こえ、清々しい気持ちになりました。



今年は理事長交代があり、変化の多い年になりそうです。前理事長の意思を引き継ぎ、はりま福祉会の良いところを残し、ステップアップしたいと思います。

事務長 山口 直美

Yさんの看取りについて

ヘルパーステーション介護職 窪内 誠
(介護福祉士)

Yさんがせいりょう園ケアハウスに暮らし約15年。

小学校の頃に全盲に。その後、幾度かの大病や手術を繰り返され、先行きの不安からケアハウスに入居されました。その後2018年、乳がんが見つかりますが、入院や治療はされず、主治医には痛みが出たら緩和治療を希望すると伝えておられ、最期までケアハウスで暮らされました。

病気の進行に伴い、今まで出来ていたこと（食堂まで車いすでの自操、トイレの利用など）が徐々に困難となり、必要時のヘルパー利用から定期巡回（定期巡回・随時対応型訪問介護看護）利用へと移行されました。

定期巡回利用とはなりましたが、亡くなられる数か月前まで大半のケアは、見守りとYさんが希望されたことの手伝いというものでした。そんな日常のケアの中、それまでに比べてYさんが車いすからトイレへの移動、洗面所の踏み台の昇降などの日常動作がゆっくりになり、息が上がっている姿を察知し、こうしてはどうですか？と提案をしたり声をかける機会が増えていきました。

全盲だからということで手を差し伸べすぎた時は「こんなん出来るよ」と言われたり、早くしないといけないというあせりが出た時はそれがYさんに伝わり、「ゆっくりしていいよ」と声をかけられたことがあります。何もかも介助するのではなく、その方を観察し、自立支援を念頭に置くこと、業務が立て込んでいる時も、今対応している方に向き合いこちらの都合を押しつけないことを学びました。

体調がすぐれず起きられない日も増えていきましたが、Yさんの亡くなる前日に短時間ではありますが、車いすに座り、おにぎりや缶コーヒーなどを口にされていたのを覚えています。

定期巡回対応だったこと、ヘルパー・訪問看護・介護支援専門員・相談員間での協力があつたこと、せいりょう園であったこと、そして何よりご本人の強い意志があつたからこそYさんらしい最期を迎えられたのだと思います。

最後に、2019年に新聞の取材を同じせいりょう園ケアハウスにお住いの妹のAさんと受けられた中で、『誰にでも寿命があると割り切るようになった。くよくよしても心に悪い虫が宿るだけ。辛い抗がん剤治療を受けるより、姉妹で一緒に明るく、あるがままに命を全うしたい』と語っておられたのを、Yさんが亡くなった今でも思い出します。



2月の行事食 ～節分～

管理栄養士 佐伯 佳代子

節分と言えば、『恵方巻き』。せいりょう園でも、2月3日の朝から、厨房ではお酢のいい香りが立ち込め、厨房職員の方々が総出で、一本一本丁寧に巻いてくださいました。私も検食をさせていただきましたが、全体に大変良いお味で、特に恵方巻きは入所者の方々からも大好評だったようです。

瀬戸内の出身の方が、「魚や寿司には少しうるさいんや。」と話されていたようですが、恵方巻きは大変喜ばれていたと聞いています。「おいしい」と喜んでいただけて大変うれしく思いました。

さて、この恵方巻きですが、お店で販売されているものには色々な種類がありますね。海鮮がたっぷり入ったものや、甘辛く味付けした牛肉のもの、カニカマやツナが入ったサラダ巻きと名付けられたものなど、たくさんあって選ぶのも楽しくなります。

元々、恵方巻きの具材は卵やかんぴょうなど7種類で、7人の神様にたとえられているそうです。有名な七福神のことですね。七つの災難からのがれられ、商売繁盛、五穀豊穰、家庭円満、健康長寿など幸福に恵まれるといわれています。

さらに、恵方巻きの長い形は、「長生きできるように」ということを意味しており、向いて食べると良いとされる方角は、5年周期を繰り返し毎年変わりますが、その方角には幸福の神様がいて、恵方巻きを食べることで、幸福の神様が体の中に入っていくと考えられているそうです。

また、主に西日本で食べる習慣があるのが、『いわし』です。

いわしを焼く時の煙で鬼を追い払い、そのいわしを食べて体の中の邪気を追い払うという理由があるそうです。鬼とは、心の中にひそむ邪悪な鬼であるとも、病のことであるとも言われますが、いわしは、DHAやカルシウムが多く含まれていて栄養が豊富な魚なので、無病息災や健康を願って食べるのも納得できます。



七福神にたとえた具材の恵方巻きを、福の神がいる方角を向いて食べる・・・何とも縁起がよさそうですね。



まだまだ寒い日が続きますが、節分が過ぎると、暦の上では春です。恵方巻きやいわしを食べ、今年も健康に過ごしたいものです。

2月の行事 ～寄せ鍋と節分～



まだまだ寒さが続く日々ですが、グループホームでは、大好きなお鍋を囲んだり、福を呼ぶ豆まきをして楽しみ、冬の寒さを皆さんと一緒に、吹き飛ばしました。

グループホーム管理者補佐 坂村 美由紀

(介護支援専門員・介護福祉士)



Tさんの看取り

地域密着型特養介護職 神吉 里佳
(介護福祉士)

Tさんは令和元年6月9日にロングショートステイの利用を開始されました。体格がいい方で、見た目は少し怖そうな印象でしたが、日々ケアをさせていただくと、気さくな人柄でとても面白い方でした。食事をするのが大好きで、毎日食事前になると「静かに待ちましょう昼ごはん」「早く食べたい栗饅頭」と言っておられ、食事を楽しみにされていました。

車椅子を自操し、日当たりのいい所を探し、廊下で日向ぼっこをするのが日課で、日々ご自身のペースで過ごされていましたが、今年の4月頃から食事中にむせ込むことが多くなり食事量が減っていきました。その後段々と食事が摂れなくなり、Tさんにとって大好きな食事の時間が、苦痛な食事の時間にかわりました。ご家族は少しでも食べてもらおうと、ご本人の食べられそうな物、好きな物を持参して下さいましたが、食事は摂れず、Tさんにとって、死の準備をし始め自然に老いていく過程に入ったのだと思いました。

ご家族からは「こうなったら胃ろうしかないのか?」と話があったそうです。ご家族は食事が摂れなくなっている姿をみて葛藤し Tさんの為に最善の選択をしたいと望み、その結果、胃ろうに結びつくのだと思いました。

「胃ろう」について看護師からご家族へ説明があり、ご家族の希望は、「延命を望まず最期まで園で過ごす」とのことでした。

私は、日々研修などで胃ろうのリスクについて学んできたので知っています。死期の準備に入った体にはそれにふさわしい摂取カロリーと水分があれば十分なこと、自然な形にまかせて亡くなるのが平穏な死になること。

今回は、私からご家族に説明する機会がなかったですが、今後説明する場が来たら、きちんと説明できるようにしたいと思います。

その為に、日々ケアの勉強をし、情報を収集して、ご家族との関わりを大事に、ご家族が何を望んでいるのか、入所者は何を望んでいるのかを汲み取っていかなければならないと思いました。

ご家族と話をした後、Tさんはまた食事が摂れるようになり、以前の生活に戻りつつありましたが、10月にコロナウイルスに感染。2週間の隔離生活を乗り切り、コロナ感染後から2週間以上経過して、ご家族に会うことができました。数日後食事を拒否されるようになり、摂取量が減っていましたが、呼吸が乱れることもなく、穏やかに過ごされ、眠るように永眠されました。コロナ禍ではありましたが、ご家族にも会うことができ、本当によかったと思いました。



お弁当屋さん「おむすび」

介護相談室 武井 博子
(介護支援専門員)

せいりょう園の南側の道路に面したところに「おむすび」と赤い幟を出したB型就労事業所があります。

月曜日から金曜日まで障がいのある方(メンバーさん)が支援員さんと共にお弁当を作って販売しています。



メンバーさんはそれぞれ自宅から通っておられます。加古川駅まで出てきて、お迎えの車で「おむすび」へ通う方、自転車であるいは徒歩で来る方もおられます。

家を出て職場へ通うことから始まって、社会生活の訓練、学びの場となります。職場での挨拶、職場の制服に着替えラジオ体操からスタート。「おむすび」の名称は食べるおむすびではなく、人と人との「結ぶ」「交流」に「お」をつけたと聞きました。

月度にメニューを決め、食材の仕入れ、調理、ケースに並べる。それぞれの工程を役割に沿って進めます。ほうれん草を洗って、茹で4cmの長さに切る。メンバーさんはそれぞれの能力に応じて受け持ち、支援員さんと共に仕上げていられる。はじめ4cmが、6cmになり8cmになることもしばしば。その都度、支援員さんは目配りをして声をかける。たくあん二切れが、三切れになったり、入らなかったりのハプニングやご飯の量を計ることが難しい方もおられるようです。「今日は何を作ったんですか」とメンバーさんに聞くと達成感のある表情で「こんにゃくを炒めた」とか「フライを揚げた」と返事が返ってきます。

昼食に間に合うように仕上げ、支援員さんが配達先へまず届けます。昼食の時刻に間に合うように作るのは緊張の連続です。配達済むとまかないの時間。みんなで食事をします。黙々と食べる人、支援員さんの声掛けもありホッとする美味しい一刻。その後休憩、一時間を挟んで役割を持ち後片付け、掃除。三時には終えてお茶と反省会を淡々と行っています。

手作りでおいしいお弁当も売れ残ることがしばしばあります。知名度が低いこと、



コンビニ等お弁当も販売するお店が沢山あることもあるかも知れませんが、「心のこもったお弁当」をモットーにぶれることなく作られています。

障がいを持つ方が真剣に働く就労の場としてお弁当屋さん「おむすび」が地域の方々に親しんでいただけたらと願っています。



サービス付き高齢者向け住宅入居者募集！

サービス付き高齢者向け住宅は、60歳以上の高齢者の方が入居できる施設です。せいりょう園のサ高住は全ての居室に「トイレ・風呂・洗面台・収納・ミニキッチン」が設置されており、これまでの自分の生活空間をそのままに独り暮らしをしながら、職員による毎日の安否確認があり、独りではない安心感があります。

現在は、新型コロナウイルス感染症対策によりお食事を他の入居者の方と一緒にすることはご遠慮いただいておりますが、お部屋を出ると共有のスペースがあり憩いの場として活用していただけます。

また、法人敷地内には、居宅介護支援事業所やホームヘルプステーション、訪問看護ステーションが併設されており、要介護になっても介護保険サービスを使うことで最期まで自分のお部屋で生活できます。これまでも多くの方がサ高住で人生の最期を迎えておられます。徒歩圏内にスーパーやコンビニもあり便利な立地ですので、是非一度ご見学ください。

[家賃] ①リバティかこがわ：103,000円（39㎡）



②自愛の家さくら：54,000円（19.1㎡）・61,000円（20.3㎡）
64,000円（24.7㎡）・65,000円（25.2㎡）・67,000円（25.8㎡）



[共益費] 10,000円 [サービス費] 20,000円 [食費] 1日 1,920円（税込）
[問合せ先] せいりょう園介護相談室 Tel (079) 424-3433

【せいりょう園空き情報 2月17日現在】

- ・サービス付き高齢者向け住宅
 - ① リバティかこがわ：8室 ② 自愛の家さくら：8室
- ・グループホーム：2室・グループホームまどか：2室
- ・グループハウス岸本邸：1室

